

地域材を活用したプランターカバーを設置しました ～宮古地区合同庁舎「花いっぱい運動」～

1 はじめに

宮古林務室では、7月26～27日に開催された「未来(あした)への道1000km縦断リレー」(以下「縦断リレー」という。)の中継地ゴール・スタートセレモニーに合わせ、合同庁舎に訪れるお客様を綺麗な花と地域材の木工品でお迎える「花いっぱい運動」に取り組みました。

2 背景

縦断リレーは、青森から東京までをランニングと自転車をつなぐ15日間の縦断リレーで、全国から集まる参加者と被災地の住民の絆を深めることを目的として、東京都と(公財)東京都スポーツ文化事業団の主催で2013年から継続実施されています。

3 地域材プランターカバー設置の概要

ゴール・スタート前の沿路に地域材をカバーに活用したプランター10基を設置し、約100名の選手のほか、イベントスタッフや応援に駆けつけた地元の方々をお迎えました。



【スタートの様子】

プランターカバーは、カラマツのFSC認証材を使用し、過去に類似の木工品を手がけた実績のある岩泉町の西倉工務店(宮古・下閉伊モノづくりネットワーク林産部会員)に作成を依頼しました。

デザインは沿岸地域を意識した船形とし、イベント当日には、大漁旗に見立てて林業、農業、水産の各普及指導担当公所が地域の名産品をアピールするミニのぼり旗を設置しました。



【地域材プランターカバー】

4 おわりに

プランターカバーは、縦断リレーのホームページで公表された動画(8月1日現在の再生回数1,760回)やFacebookに登場しているほか、水産施設関係者が設置を希望しているという話も耳に入っており、今後もプランター設置を継続して、身近な木工品への地域材利用について普及啓発を図っていききたいと思います。